

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科課目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
衛生管理	45 (1.5単位)	美容科・1学年	1~3学期	必修	講義	○
担当者氏名	実務経験略歴			担当教科課目該当資格等		
菊田 安宏	有・理容業務・理容室経営(理容師)			理・美容師養成施設指定規則第3条該当者		
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の意義と本質とを理解し、理容師・美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させる。 ・生活衛生の意義と目的について、理容師・美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。 ・公衆衛生の現状を把握し関連の法律を含めて理解を深め、適正な知識を習得して理容業・美容業の従事者となれるようにする。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書	衛生管理		(公益社団法人 日本理容美容教育センター)			
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四 七月	1編 公衆衛生	1章 公衆衛生の概要 ・公衆衛生の意義と課題 ・公衆衛生発展の歴史 ・理容師・美容師と公衆衛生 ・保健所と理容業・美容業 2章 保健 ・母子保健 ・公衆衛生の意義について理解させるとともに、公衆衛生が日常生活あるいは理容業・美容業とどのように結び付くか、公衆衛生の発展向上のために理容師・美容師として何をなすべきかを理解させる ・公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかを知らせる	15
二学期	八 十二月	1編 公衆衛生	・公衆衛生は対人的な予防医学と対物的な環境衛生とに大別されることを知らせ、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤をなすものであることを理解させる ・保健所の機能、組織、業務などについて知らせ、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的存在であること及び理容業・美容業と保健所とは密接な関係があることを理解させる	10
		2編 環境衛生	1章 環境衛生 ・環境衛生の概念 ・空気環境 ・衣服、住居の衛生 ・上下水道と廃棄物 ・衛生害虫とネズミ ・環境保全 2章 理容所・美容所の環境衛生 ・理容・美容所の環境衛生 ・衛生的取り扱い	10
三学期	一 三月	2編 環境衛生	・理容業・美容業を通して公衆衛生の維持、増進への責務の重要性を知る ・理容所・美容所における環境衛生、特に採光、照明、換気、床などの構造設備について理解させる ・環境と健康、衣食住の衛生、廃棄物処理と環境保全等について理解させる ・公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得を促すことで、公衆衛生の向上に資する努力義務を理解する ・環境衛生の意義と内容を理解させると共に、理容所・美容所において特に注意しなければならない環境衛生について理解させる	10

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
保健	45 (1.5単位)	美容科・1学年	1～3学期	必修	講義	○
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科目該当資格等			
佐藤 学	有・美容業務・美容室経営(美容師)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの「皮膚付属器官の構造と機能」に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とするとともに、十分に理解させる。 ・理美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させ、習得させる。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書	保健		(公益社団法人 日本理容美容教育センター)			
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月 ～ 七月	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容師の日常業務で特に大切な部位である「頭部」「顔部」「頸部」の名称や大きさを計測する基準点について理解させる。 ・人体の位置や方向性を説明する言葉についても、理美容師の日常業務において、必要となるため正確に理解させる。 	5
		第2章 骨角器系	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の支柱である「骨格」について、人体構成する骨格に数、骨角器系はどのように形成させられているのか、また骨角器系のその他の働きや目的を十分に理解させる。特に理美容業を関連性が深い「頭蓋」については具体例をあげながら、理解させる。 	5
		第3章 筋系	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格筋、心筋、平滑筋の違いについて理解させる ・全身に主な骨格筋を把握させ、特に拮抗筋と協同筋については注意深く指導する。 ・理美容の業務に特にかかわりが深い「顔面筋」についても十分に理解させる 	6
二学期	八月 ～ 十二月	第4章 神経系	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の分類について十分に理解させる。 ・中枢神経の構造と機能を具体例を挙げながら理解させる。 ・交感神経と副交感神経の違いを重点的にして十分に理解させる。 	6
		第5章 感覚器系	<ul style="list-style-type: none"> ・各感覚器の構造と受容のしくみを十分に理解させる。 	5
		第6章 血液・循環器系	<ul style="list-style-type: none"> ・血液特に血球成分や種類と特徴について理解させる。 ・大循環、小循環、門脈循環の仕組みとその機能について、丁寧に説明をしながら理解させる。 ・リンパ管系の構造と機能を理解させる。 	6
三学期	一月 ～ 三月	第7章 呼吸器系	<ul style="list-style-type: none"> ・気道について把握し、各部の構造と機能を理解させる。 ・肺の仕組みと呼吸運動について、関連する筋とともに理解させる。 	6
		第8章 消化器系	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管の構造と機能を十分に理解させる。 ・機械的消化と科学的消化の違いに重点をおき十分に理解させる。 ・各消化腺の仕組みや機能、分泌される消化酵素について日常生活での具体例を挙げながら理解させる。 	6

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
文化論	30 (1単位)	美容科・1学年	1～3学期	必修	講義	○
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科課目該当資格等			
大内明日香	有・美容室勤務経験者(美容師)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と西洋の美容における歴史について理解を深める。 ・日本と海外の髪型・服装・メイクなどのトータルのファッションの変遷を学ぶ。 ・礼装についての知識も深め、エチケットを学ばせる。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書	文化論		(公益社団法人 日本理容美容教育センター)			
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月 ～ 七月	第一章 総論	<ul style="list-style-type: none"> ・総論、理容・美容の語義。理容と美容の違いを学ばせる。 ・日本の理容業、美容業の歴史。それぞれの原点を知る。 ・江戸時代での理容業、美容業の動向及び制度を理解させる。 ・近代における、それぞれの法令や発展の経緯を学び、現代までの変遷を深く理解させる。 	6
		第二章 本の理容業、美容業の歴史 第三章 ファッション文化史日本編	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文、弥生、古墳時代における髪型、服装、化粧や特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルを考える。 ・古代(飛鳥、奈良、平安時代)の髪型、服装、化粧の当時の流行を考える。また当時の政治的背景により変化した服装における礼装や、化粧、髪型の男女での美しさの意識の違いも理解させる。 	4
		第三章 ファッション文化史日本編	<ul style="list-style-type: none"> ・古代(飛鳥、奈良、平安時代)の髪型、服装、化粧の当時の流行を考える。化粧の際に使われた原料や美意識の変遷、服装では身分による違いや政治的背景も一緒に考える。 ・中世(平安末、鎌倉、室町、戦国時代)の髪型、服装、化粧を理解する。特に服装、髪型においては、身分の差が顕著に表れるのでそのちがいはつきりと理解させる。 ・近世Ⅰ(戦国末、安土桃山時代)の髪型、化粧、服装についてその変遷を理解させる。 ・近世Ⅱ(江戸時代)の髪型、化粧、服装について学ぶ。特に髪型では現代の美容にも繋がる日本髪が出るのでその原点を知り、現代との相違点を探る。 	15
三学期	一月 ～ 三月	第三章 ファッション文化史日本編	<ul style="list-style-type: none"> ・近世Ⅱ(江戸時代)の髪型、化粧、服装について学ぶ。服装では現代の和装に近づくので当時と現在の相違点を考えつつ、和装における礼装も学ぶ。 ・明治、大正、昭和20年までの髪型について。日本髪の衰退に伴って西洋東髪の流れまでの変遷を深く理解させる。 	5

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科課題名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
美容技術理論	75 (2.5単位)	美容科・1学年	1～3学期	必修	講義	○
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科課題該当資格等			
八島伸江	有・美容室勤務経験者(美容師)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術についての知識を能率的に実践できるよう、技術の裏づけとなる理論の理解。 ・技術手順に加え、美容用具、薬剤や化粧品についての知識とその使用方法を学ぶ。 ・国家試験の問題での理論や実技の理解をさせ合格点に導く。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書	美容技術理論		(公益社団法人 日本理容美容教育センター)			
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月 ～ 七月	美容技術理論を学ぶにあたって美容用具パーマメントウエーブシャンプーイング	<ul style="list-style-type: none"> ・美容理論と美容技術理論 ・作業姿勢 人体各部名称 ・美容とデザインの要素 ・用具、器具の名称とその目的 ・用具類 選定方法、取扱の理解 ・パーマ技術の工程 ・回転数、ロッド選定法の理解 ・毛髪の構造 ・ウエーブが形成される仕組みの理解 ・パーマ剤の取り扱い ・シャンプーイング サイドシャンプーとバックシャンプー ・シャンプーの目的や成分の理解 	24
二学期	八月 ～ 十二月	ヘアカッティングヘアセッティング	<ul style="list-style-type: none"> ・コームやシザーの名称 ・カット技法 ・カットスタイル理論概論 ・ヘアカッティングの正しい姿勢 ・ヘアカッティングの基礎、理論 ・ウエーブの名称 ・ウエーブとループについて ・国家試験課題を踏まえての理論の見解 ・カールスペース 	33
三学期	一月 ～ 三月	ヘアデザインヘアカラーリング	<ul style="list-style-type: none"> ・調和と比率 ・デザインの原理 ・美容とデザインの要素 ・カラー剤について ・薬剤の理論概論 	18

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科課目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
美容実習	450 (15単位)	美容科・1学年	1～3学期	必修	実習	×
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科課目該当資格等			
八島伸江	有・美容室勤務経験者(美容師)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術についての知識を能率的に実践できるよう、実技の理解。 ・技術手順に加え、美容知識とその使用方法を学ぶ。 ・国家試験の課題での理論や実技の理解をさせ合格点に導く。 ・就職してからの即戦力になれるようシャンプースキルを身につける。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書						
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月 ～ 七月	ワインディング シャンプーイング	<ul style="list-style-type: none"> ・用具類の説明(名称、持ち方、使い方、メンテナンスの仕方) ・ウイッグの取り扱いとメンテナンス ・ワインディング(ブロッキング コーミング 立ち位置 目線) ・ワインディング(上巻き) ・ワインディング(下巻き) ・ワインディング(センター(確認テスト)) ・ワインディング(全頭配置とおさまり方、手順) ・ワインディング(全頭BR込み(確認テスト)) ・シャンプー技術 サイド(1stシャンプー) ・シャンプー技術 サイド(2stシャンプー) ・ブロードライ ・シャンプーテスト 	150
二学期	八月 ～ 十二月	ヘアカッティング ヘアセッティング	<ul style="list-style-type: none"> ・コームやシザーの使い方 ・カット技法 パネルの引き出し方 ・カットスタイル実技 ・ヘアカッティングの正しい姿勢 ・ヘアカッティングの基礎、実技 ・ウエーブの作り方 コームの使い方 立ち位置 ・ループの作り方 コームの使い方 立ち位置 ・国家試験課題を踏まえての実技 全頭 ・カールスペース 全体のバランス 	188
三学期	一月 ～ 三月	ワインディング ヘアカッティング ヘアセッティング シャンプーイング	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題の確認テスト ・国家試験時間内仕上げ ・バックシャンプー技術 ・シャンプーテスト 	112

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科課目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
日本文化	30 (1単位)	美容科・1学年	1～3学期	必修	講義	○
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科課目該当資格等			
渋谷廣信・渡邊美穂	渋谷廣信(生花店経営、フラワー装飾) 渡邊美穂(茶道教室経営、裏千家教授)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の伝統的文化の歴史と特色を理解させ、このことを記憶し、伝承することの必要性和重要性を根底から自覚させ、理美容師としての資質向上を目的とする。 我が国特有かつ歴史的文化である茶道及び華道の歴史と特色及び理美容師としての知識として学ばせると共に、実際に親しませ伝統的文化が現在の日本においても日常生活の根底に息づいていることを認識させる。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書	各担当講師作成資料等					
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月	<input type="checkbox"/> 茶道 ・日本伝統文化歴史 ・千利休の功績 ・茶道具名称等	<input type="checkbox"/> 茶道 ・表千家と裏千家の歴史を理解させる。 ・中国より伝来したたんなる「茶」を、日本人の知恵と感性により「茶道」とした背景などを理解させる。 ・千利休が「茶道」における功績を知ることで、日本伝統文化である茶道を通して、お客様ももてなす心を育てる。 <input type="checkbox"/> 華道 ・日本の華道文化 ・仏教と華道 ・生け花の歴史	10
	七月	<input type="checkbox"/> 華道 ・日本の華道文化 ・仏教と華道 ・生け花の歴史		
二学期	八月	<input type="checkbox"/> 茶道 ・美味しいお茶の条件 ・良い水の重要性 ・茶碗を選ぶ意味	<input type="checkbox"/> 茶道 ・薄茶と濃茶の違いを実習を通して体験させる。 ・軟水と硬水でお茶をたてた違いを実習をとおして体験させる。 ・立てたお茶によって向いている茶碗を実習を通して体験させる。 <input type="checkbox"/> 華道 ・基本的な生け花の型を実習をとおして指導する。 ・鉢の基本的な使用方法を実習を通して、体験させながら指導する。	10
	十二月	<input type="checkbox"/> 華道 ・真の基本花 ・鉢の使用法		
一学期	一月	<input type="checkbox"/> 茶道 ・正月の菓子 ・期末試験について ・茶道総まとめ	<input type="checkbox"/> 茶道 ・正月のお菓子として「はならびらもち」の意味合いを理解させる ・期末試験内容について、説明をする ・茶道の歴史を復習を交えて説明し、理解させる。 <input type="checkbox"/> 華道 ・第一変化形、第二変化形、第三変化形 ・吸水性スポンジ特性、花の切り方とさし方 ・花型応用の自由花	10
	三月	<input type="checkbox"/> 華道 ・生け花 ・アレンジメント ・自由花		

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科課目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
専門教育	90 (3単位)	美容科・1学年	1~3学期	必修	実習	×
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科課目該当資格等			
八島伸江	有・美容室勤務経験者(美容師)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容に関する総合的な理論と実技 ・専門美容技術について工夫と創造の能力を身につける。 ・着付けの着物の名称など普段に自分で楽に着られるような技術を習得する。 ・ネイルの道具類、使用方法等を実践的に学ぶことで技術者の一助として活躍できるよう。 					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書	専門教育		(公益社団法人 日本理容美容教育センター)			
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月 ～ 七月	着付け 浴衣	<ul style="list-style-type: none"> ・浴衣と帯の説明(名称 たたみ方) ・自分で着付けをする。 ・浴衣着付けテスト 	10
		メイク クラウンメイク	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウンメイクの理論 ・クラウンメイク実技 	6
		ヘアアレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・アップスタイル(抱き合わせ(1)(2))土台の作り方他 ・アップスタイル(和髪(1)(2)(3))面、すき毛の使い方 ・アップスタイル(夜盛り(1)(2)) スジ盛りの作り方 	10
二学期	八月 ～ 十二月	ネイル ネイル検定	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイル理論 ・ネイル実技 ・アイモデル実技 	34
		メイク 特殊メイク	<ul style="list-style-type: none"> ・傷メイク(傷の作り方、切り傷、ケロイド、刺し傷、銃弾痕) 	10
		ヘアアレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・アップスタイル(相モデル(1)(2)) ・実際に人に対する扱い方 ・長さ合ったアレンジを考える 	10
三学期	一月 ～ 三月	ヘアアレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・アップスタイル(作品制作) <ul style="list-style-type: none"> ・グループ製作 ・テーマを決め、イメージにあった作品を作る。 	10

学校法人 福島県高等理容美容学院

令和4年度(2022年) シラバス

教科課目名	時間数(単位数)	学科・学年	学期	区分	授業方法	同時授業
美容総合技術	120 (4単位)	美容科・1学年	1～3学期	必修	実習	×
担当者氏名	実務経験略歴		担当教科課目該当資格等			
八島伸江	有・美容室勤務経験者(美容師)		理・美容師養成施設指定規則第3条該当者			
学習目標及び到達目標	サロンワークで様々なお客様に対応できる技術を身に着ける。					
成績評価	期末試験(60点以上合格)・出席状況(履修率80%以上)により評価					
教科書						
副読本						

学習指導年間計画(授業計画)

学期	月	章	学習内容及び学習目的	履修時間
一学期	四月 ～ 七月	第2章 シャンプー	・シャンプー総論。①シャンプーの目的 ②施術による違い ③メカニズム ④成分 ⑤種類 ⑥注意点 ⑦プロセス を学ぶ。特に注意点では、衛生的にしかも快感を与えるように隅々まで気を配ることができるようにする。さらにお湯加減や首回りの不快感、力加減など細かくお客様に声をかけながら施術を行うように心がける。	30
		第2章 シャンプー	プロセスでは始めにブラッシングをするがその目的と手順をしっかりと理解させる。 ・サイドシャンプーではファーストシャンプーとセカンドシャンプーの手順と目的の違いを明確に理解する。ここでもお客様に細かく声をかけるようにする。 ・実践練習。ファーストシャンプー、セカンドシャンプーそれぞれのタイムを設定して時間内にできるように練習する。	30
二学期	八月 ～ 十二月	第2章 シャンプー	・バックシャンプーではファーストシャンプーとセカンドシャンプーの手順と目的の違いを明確に理解する。またサイドシャンプーとの違いも覚える。 ・実践練習。ファーストシャンプー、セカンドシャンプーそれぞれのタイムを設定して時間内にできるように練習する。	30
三学期	一月 ～ 三月	第6章 ヘアセッティング	・ブロードライについて。ブロードライの目的とそれぞれのスタイルに合わせた道具の選定と基本の技術を学ぶ。 ・一年次ではハンドブローを練習する。	30